

TIMETABLE

6月 2日(金) 創立記念日(共通)	8月 29日(火) 前期末卒業合否発表(大学・短期大学)
7月 15日(土) 前期授業終了(大学・短期大学)	前期追試験・再試験申込受付(大学)(至30日(水))
18日(火) 前期試験開始(大学)(至8月1日(火))	9月 6日(水) 前期追試験・再試験(大学・短期大学)(至8日(金))
(短期大学)(至29日(土))	9日(土) 前期追試験(法科大学院)(至10日(日))
19日(水) 前期授業終了(大学院)	16日(土) 後期オリエンテーション(法科大学院)(至20日(水))
20日(木) 夏期休暇開始(大学院)(至9月30日(土))	21日(木) 後期オリエンテーション(大学)(至30日(土))
28日(金) 前期授業終了(法科大学院)	後期授業開始(法科大学院)
29日(土) 前期補講(法科大学院)(至8月4日(金))	25日(月) 卒業式(大学・短期大学・大学院)
31日(月) 夏期休暇開始(短期大学)(至9月30日(土))	26日(火) 後期オリエンテーション(短期大学)(至30日(土))
8月 2日(水) 夏期休暇開始(大学)(至9月30日(土))	10月 2日(月) 後期授業開始(共通)
5日(土) 夏期休暇開始(法科大学院)(至9月20日(水))	16日(月) 後期分学費納付期限(共通)
26日(土) 前期試験開始(法科大学院)(至9月3日(日))	27日(金) 岸辺祭(至30日(月))

新 刊 紹 介



『最適課税と環境税の経済分析』

鎌苅 宏司
経済学部 助教授 共著
中央経済社



『ヘルマン・ヘッセ全集 10』

吉田 卓
外国語学部 教授 共訳
臨川書店



『ブリーマ独和辞典』

吉田 卓
外国語学部 教授 共著
三修社

大阪学院大学広報

L'horloge ロルロージュ No.131
May 2006

- 発行 大阪学院大学
大阪学院短期大学
- 編集 広報部

〒564-8511
吹田市岸部南二丁目36番1号
☎(06)6381-8434(代表)

URL
<http://www.osaka-gu.ac.jp>

編集後記

青葉薫る五月となり、学内では新入生諸君のみならず、在学生諸君も勉学に余暇活動にと、はつらつとした姿を見せている。日本経済も明るさを増してきていることは喜ばしい。

そもそも世界経済の変化は目を見張るばかりである。中国沿海部地方の経済はすでに先進国並みになっているようだ。インドは情報産業そのほかで目覚ましい躍進を遂げている。ヨーロッパでもかつては目立たなかった諸国、例えばフィンランドの活躍が目立っている。興味深いことは、日本がこれらの諸国から置いてきぼりにされているというよりも、これらの諸国の成長のおかげで日本の景気回復がもたらされているということである。日本の輸出主力は今や自動車だけではなく、過去のものと思われていた鉄鋼、化学品、船舶の輸出も大きく伸びている。世界は意外性に満ちていると改めて感じさせられる。

L'horloge

Osaka Gakuin University
Public Relations Bulletin

ロルロージュ No. 131

May 2006

ESSAY

「セネカの読書論」
根無 喜一

FOCUS

ホスピタリティ
インダストリー研究所

VOICE

ラグビー部 豪雪にタックル
～ボランティア活動報告～

CAMPUS LIFE

CAMPUS NEWS DIGEST

INFORMATION

新刊紹介

『セネカの読書論』

「最近の学生は本を読まない」とよくいわれる。それはなにも学生だけに限ったことではなくて、最近の人間は本を読まないのではないか。パソコン、携帯電話など多様な情報手段に囲まれる生活では、読書の比重が低下するのは仕方ないのかも知れない。

おくめんもなくいわせてもらえば、それでも、いや、それだからこそ、読書の意味や素晴らしさが理解されなくてはならない。エリザベス朝の^{せきがく}碩学フランシス・ベーコンは『ベーコン随筆集』で、「読書は満ちた人をつくる」[Reading maketh a full man.]と述べている。そしてこの場合、「満ちた人」というのは「心豊かな人」という意味らしい。では、どんなふうに読書を始めたらいいのであろうか。良い書物を読んだらいいのに決まっているのであるが、何が良書であるのかは、そんなに明確にあらかじめ了解されているわけではない。だからまず、最初はある程度、行き当たりばったりに多読することが必要である。芸術鑑賞もこれに似ている。多くの名画、名曲を経験することで、その人の目や耳は肥えてくる。読書でも多読の中で、何が良書なのかおのずと分かってくるのではないか。

人生は短く、古来の書物はきわめて多い。こうなると手当たり次第に読んでいるというわけにはいなくなる。ここでセネカの登場ということになる。高等学校の『世界史』を勉強した人なら少しばかり知見はあると思われるが、まず、彼のプロフィールから見ておきたい。セネカは紀元前5年にスペインのコルドバの富豪の家に生まれ、若くして哲人の名声を得ていた。ローマ皇帝クラウディウスの妃の嫉妬を買って、コルシカ島へ流罪となり、ここで、優れた論文数編と下手な悲劇数編を残したという。その後皇帝ネロの家庭教師に迎えられ、ネロ帝初期の平穏な政策に大きな影響を与えた。奇人だったという。良心にこだわり過ぎることなく、地位を利用して財をなしたが、豪華な生活は望まなかった。書籍と美術以外には儉約家であったが、高利貸で暴利をむさぼるなど、権力欲と金銭欲には非難が絶えなかった。しかし、ネロが自らの新しい師としてペトロニウスに接近し、暴政が始まると、彼は身を引こうとした。結局最後は反逆罪に問われ、死を命じられて自殺することになった。紀元後65年であった。



モンテーニュ

セネカの生活の半分は、十分にストアの巨匠として理解できるものであるが、権力欲に満ちた生活は、なかなか了解できない。でもそこに人間なるものの、まか不思議を見て取ることができるのではないか。とにもかくにも彼は、一方で極めて現世的な人生を送り、他面においてストイックな観念に支配されていた。そんな人間が書いたものには、何かしら、すさまじい人生の本質がかいま見られるような気がする。例えば16世紀フランス・ルネサンスを代表するモラリストのモンテーニュは、名著『エッセー』で書いている。「セネカは、徳を弱さや、恐れや、数々の邪悪な欲望に対して鎧わせようとして、



フランシス・ベーコン

骨を折り、身をこわばらせ、緊張する。……セネカはストア的な、エピクロス風な、そして世間一般の習わしからは一層かけ離れているが、私の考えでは、個人に対して最も具合のいい、そして最も確実な意見をいろいろ持っている」。

セネカは読書についてこう言っている。「しかしそんな風にやたらに多くの著者の本を読むのも、雑多にいろんな種類の本を読むのも、心に何か無計画なもの、不安定なものがあるせいじゃないかと疑ってみた方がいい。もし君が本気で心の中にしっかりと刻みこまれる何かを得たいと願っているんだったら、一定の巨匠のもとに留まって、彼らに養ってもらわねばだめだ。どこにでもいることは、どこにもいないということだからね」。

セネカは、人生は短く、書籍は多いから、良書を選んで読めと言っているだけではない。その意味での読まざることの必要性は、常に言われてきたことである。『セネカ 現代人への手紙』[岩波書店 2004年]で、ドイツ文学者の中野孝次は、一歩進んでセネカの立場をこう解説する。セネカのいう読書とは、読書の中に自分の生活や人生を問い直す過程である。多読することは、気分を散漫にし、自分を見失うことにほかならない。セネカにとって重要なのは、自分自身を発見し、その自分に全的な信頼を置くことであった。それには、あっちこっちと目移りすることが弊害となる。自分の心、自己の内部に沈潜すること、自分自身と会話する能力を身につけることこそ肝要だというのである。読書においても、こうした自身の確立をなさねばならないと、セネカは喝破したのである。



サヴァラン

フランス革命にほんろうされながらも、ユーモアあふれる、しかし実は大変まじめに「美味学」について論じた、ブリア・サヴァランは、『美味礼賛』のなかでアフォリズムとして、「どんなものを食べているか言ってみたまえ。君がどんな人であるか言いあててみせよう」と語っている。食べ物、心の糧としての食べ物は読書である。どんな本を読んでいるかは、その人がどんな人であるかということだ。食事に好みがあるように、書物にも好みがある。それが個性というものであろう。

多読もよい。しかしセネカの言う読書を通じて自己を発見したり、自分を確立したりすること、つまり自分らしきを作り出すことが、ゆっくりとできるのは学生時代の特権なのかも知れない。どうか、自分なりの良書に出会って(会おうよう努力して)、自分とは何かを見付けて下さい。ちなみに、筆者自身の好きな書物の一端は、この小文中に引用したものです。すべて邦訳があります。

根無 喜一 国際学部 教授

主担当科目：西洋文化史、政治外交史

趣味：鍋本清方と小村雪岱の絵画鑑賞

著書：『西洋史』（共著）



セネカ

FOCUS

ホスピタリティ インダストリー研究所

今回の FOCUS では、2006年4月に開設されました「ホスピタリティインダストリー研究所」の取り組み、そのなかでも特に同研究所が提供する「ホスピタリティプログラム」について特集します。

ホスピタリティインダストリー研究所



「元ホテル総支配人」の仲谷秀一 教授、「ファッション、航空業界の専門家」である杉原淳子 助教授・藤田恵美子 助教授、そしてシーサイドホテル舞子ビラ神戸の「現役取締役総支配人」の森重喜三雄 客員研究員を核に、経験豊富な講師陣と事務スタッフがー丸となって、教育コンテンツの開発や学生の指導、履修・キャリア支援を行います。

ホスピタリティインダストリー研究所の取り組み

ホスピタリティプログラムの開講

ホテル、旅館、レストラン、航空、旅行、ブライダルなどホスピタリティ産業の経営者、起業家、管理職、高度なスキルを要するスペシャリストを養成する独自のプログラムを開講。

ホスピタリティ関連の講座・セミナーの開催

エクステンションセンターと共催「ホスピタリティビジネス入門」講師：仲谷秀一教授（元ホテル総支配人）、杉原順子（本学ホスピタリティインダストリー研究所助教授）、森重喜三雄（シーサイドホテル舞子ビラ神戸取締役総支配人） 2006年7月5日（水）、7月12日（水）、7月19日（水）開催

ホスピタリティ産業との産学連携

京阪神の主要9ホテルと提携し、日本の大学初となる実務型300時間のインターンシップを実施します。また、提携ホテルの若手幹部候補の「ホテル・旅館経営」ゼミナールへの受け入れや、ホテル社員を対象とした「ホテルマネジメント講座」開講も予定しています。

ホスピタリティ関連の情報発信

最新情報はブログ「大阪学院大学の『ホスピタリティ経営学』」をチェック
→ <http://blog.goo.ne.jp/hic2006/>



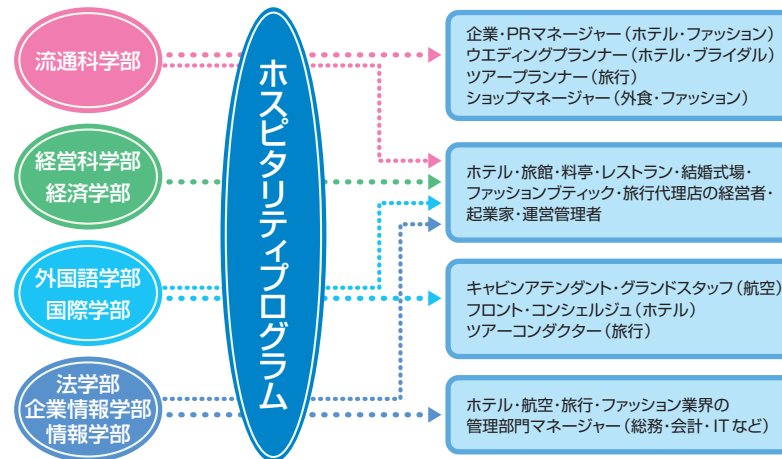
専用ラウンジ 17号館5階に開設

研究所研究員、事務スタッフが、学生の皆さんの履修・進路相談、問い合わせに対応します。お気軽にラウンジにお越しください。研究所の対応時間は、午前9時から午後5時までです。

ホスピタリティ プログラム ポイント1

学部（理論）+ホスピタリティプログラム（実践）=ダブルメジャー（二つの専攻）

ホスピタリティプログラムは、全学部の学生が受講でき、それぞれの学部での学びに実践的な力を加えることで実践運用力を高めることができます。



ホスピタリティ プログラム ポイント2

体系的な本格的ホスピタリティ教育の実践

社会人、職業人として自立するためのマナーやコミュニケーションに力点を置いた「人間形成/基礎科目」、実務経験豊富な講師陣による「ホスピタリティ/ファッション専門科目」「エアライン/ツーリズム専門科目」、徹底的な個別指導でサポートする「演習・インターンシップ」からなる計41科目の充実した体系的カリキュラムです。

ホスピタリティ プログラム ポイント3

日本の大学初となる300時間の実務型インターンシップ

ただの“体験”で終わらせない本格的な300時間の実務型インターンシップ（有給）で、将来マネージャーとしての視点を養います。

実務型インターンシップ受入ホテル（2006年度）

大阪 新阪急ホテル、リーガロイヤルホテル大阪、ハイアットリージェンシー京都、京都ブライトンホテル、ウェスティンホテル淡路、新神戸オリエンタルホテル、神戸ポートピアホテル、シーサイドホテル舞子ビラ神戸、神戸メリケンパークオリエンタルホテル

ホスピタリティ プログラム ポイント4

実務経験豊かな教員がサポート

研究員は、現役のホテル総支配人をはじめとして、ホテル・航空・旅行・ファッション業界の実務・社会経験豊かな教員で編成。研究員一丸となって、実践教育から進路指導まで、学生の将来設計をきめ細かく強力にサポートしていきます。

ラグビー部 豪雪にタックル ～ボランティア活動報告～



～ 座談会出席者 ～（順不同）

角田 聡 経済学部 教授 学生部長（進行）
小倉 康三 企業情報学部 教授 広報部長代理（司会）
田代 義晴 ラグビー部監督
大西 秀志 法学部 4年次生 ラグビー部主将
吉川 喬之 経済学部 4年次生 ラグビー部副主将
瀧澤 慎吾 流通科学部 3年次生 ラグビー部主務
大倉 直輝 経済学部 2年次生 ラグビー部副務
岡本 祥明 経済学部 4年次生 ラグビー部

【小倉】 本日は、ラグビー部員による新潟県での豪雪におけるボランティア活動をテーマに、皆さんにいろんな体験をお話いただこうと思います。



小倉 康三
企業情報学部 教授
広報部長代理

【角田】 早速ですが、今回、本学のラグビー部が新潟県南魚沼郡湯沢町で雪害に遭われた方のために、除雪作業のボランティア活動として参加したことを聞かせていただければと思います。

最初に、今回のボランティアに参加しようと思われたきっかけを田代監督から聞かせていただけますか。

【田代】 社会問題にもなっている新潟県の大雪ということで、除雪作業の報道を見て、一人暮らしの高齢者の方々の苦勞を知り、「自分たちに何かできることはないか」と考えました。そして、違う年代の人たちとの交流が希薄な中、「今の若者たちにとって何か良いチャンスがないか」と考え、ボランティア活動にラグビー部全員が参加することとなりました。

【角田】 最初に監督からボランティア活動に参加する話を聞いたときに皆さんはどのように思われましたか。

【大西】 チームが一つになれるちょうど良い機会だと思い、快く受けました。

【瀧澤】 最初にキャプテンの大西さんから話を聞いて、「新潟なんて冗談だろう」と思いましたが、監督が真剣に話されているのを聞いて行きたいと思いました。

【角田】 今年は雪が多く、新聞やテレビのニュースなどでもご存じのように、4メートルもの積雪があるところも多かったようです。実際に現地に行って最初はどのような感想を持ちましたか。

【吉川】 あんな雪を見たのは初めてだったので本当にビックリしました。家が埋まっているぐらいでした。

【大倉】 僕は大阪に住んでいるので、あんな雪は見たことがなく、最初に見たときはテンションが上がって、「すごい雪だ」と皆で言っていました。実際に除雪作業をやってみると大変で、現地の人たちの苦勞がよく分かりました。

【岡本】 新潟に着くまでは、行きたいというワクワク感や期待感を持っていましたが、いざ新潟に着いてローカル線に乗ってみると、すごい雪で、ワクワク感より不安感の方が高まりました。

【角田】 現地に行って、今年は雪が本当に多かったということですが、除雪作業というボランティア活動はどうでしたか。



角田 聡
経済学部 教授（進行）
学生部長

【吉川】 11年前に阪神・淡路大震災



で家が倒壊する被害に遭いましたが、そのときにいろんなところからボランティアにきてくれ、炊き出しなどをやってくれて助けてもらったので、僕も頑張ろうと思いました。

【角田】 近年、全国的に大学のスポーツ系クラブの問題が出ていますが、その辺りのことも少しは今回のボランティア活動と関係があったのですか。

【田代】 そうですね。大学のスポーツといいながらもプロではないので教育とスポーツの両立、文武両道も目的のひとつです。大学のスポーツ界はここ数年良い話がないので、逆行というわけではありませんが、「人のために何かできないのか」ということもありました。

私も阪神・淡路大震災のときに神戸におり、ボランティア活動をした経験もあったので、その思いを今の学生に伝えることで、学生に何か役に

立つのではという思いで行きました。

【小倉】 今、お聞きしていて、本当に素晴らしいことをされたと思います。「ボランティア」という言葉が先行することが多いですが、実際に心で思ったことを行動に移し、体ですぐさま行為に結び付けていく。その気持ちを実際に表す。まず心が向かないと行動は出てこないですから、気持ちが向いたのは何かのモチベーションがあるわけですね。

自ら思われた方もあったでしょうが、今回は監督の一言が起爆剤になったということをお聞きました。そして、監督がおっしゃいました。「文武両道」ということを実践され、その経験がラグビーの活動に、気持ちの豊かさにつながっていくと思います。勝ち負けだけではなく「気持ちが高揚する」いわゆる向上心のようなものが出てきて、ゆとりも出てくると思います。人間的な幅の広さも出てきておられるのではないかと

と思いました。

【角田】 ボランティア活動の内容についてお伺いしたいのですが、先ほど雪を見て驚いたと言われましたが、実際に除雪作業をやってみてどうでしたか。

【大倉】 実際にやっていると思うと暑くて大変でした。僕たちは行っているときだけですが、住んでおられる方々は毎日ですから、こんなことでしんどがっているはいけないと思いました。



大倉 直輝
経済学部2年次生

【岡本】 スコップ一杯の雪の重さは想像以上に重かったので、雪ってこんなに重いのかと思い、最初のうちは雪かきが途方もなく思えました。

先が見えてきたらどんどん楽しくなってきた、練習よりもある意味しんどかったですが、楽しかったです。

【瀧澤】 正直なところ、今まで雪かきをする機会などなかったのも、最初から楽しんで雪かきをやっていて、僕の性格上なのか、楽しいことをしんどいと思わない性格なので、雪を掘り起こしていくと、楽しくて時間があっという間に過ぎていきました。

【角田】 雪かきの量がすごかったそうですね。本学のホームページには一人住まいのおじいさんの家での雪かきについて載っていましたが、どうでしたか。

【吉川】 最初は家が全部埋まっていました。おじいさんはあまり愛想が良くなかったのですが、最後には「ありがとう」と言ってくれ、それがとてもうれしかったです。



吉川 喬之
経済学部4次年生

【角田】 ボランティア活動をしている間の部員の宿泊などは、どうされていたのですか。

【大西】 宿舎は現地のボランティアセンターの方が用意してくださり、障害者の方が使われている福祉センターで寝泊りさせていただいていましたが、朝食と夕食は自炊でした。

朝の雪かきが終わり、昼の雪かきも終わった後で何人かで買い出しに行き、食事を作りました。ふだんも



自炊をしているかもしれませんが、僕らは家から通っていてなかなか自炊する機会がないので良い経験になりました。

【角田】 クラブの合宿でも、今は宿舎で食事は用意してくれますので、自分たちで自炊してのボランティア活動は、皆がまとまらないとできなかったでしょうね。今回の活動を通じてチームの雰囲気はどんな感じになっていきましたか。

【瀧澤】 初めは自分の部屋に入るときにスリッパを並べるというような小さいことでも人任せなところが多く、「靴は並べろ」「集合は5分前に早く来い」ということを繰り返し何度もやっていたら、日が経つごとに皆がきちんとできるようになり、チームとしてもうまくまとまりができてきたと思いました。

【田代】 当番制で買い出しをして、朝の味噌汁から夜の鍋まで、毎日メニューを変えながらやりました。先

ほども言いましたが、マナーとしてスリッパの並べ方も徹底し、門限なども決めながらやっていきました。

ボランティアの方と共同生活をしていく中で、学生が何かを感じて自分で行動に起し、最終的に、チームワークに結び付けば良いという考えがありました。

【角田】 皆さんの中で、今回の除雪作業のボランティア活動で、楽しかったと感じたことや、嬉しかったこと、感動したことはありますか。

【大倉】 楽しかったと思ったのは、その家は窓が全部雪で隠れていて、「家の中が暗い」とおばあさんに言われました。そこは家と家の間の狭い所で、除雪作業を行うのが大変だったのですが、そこに入って何とか窓を開けると、おばあさんが窓から顔を出して「家に上がり」と言い、お茶や団子を持ってきてくれたことがうれしかったです（笑）

【大西】 「行動しない」というか、だれかがやるから任せておこうという感じでみんなが思っているの、瀧澤君が言ったように、スリッパを並べるにしてもだれかやってくれ

る。結局は、だれもやっていないから注意するという感じで、そこをまとめるのは難しかったです。

【角田】 大人数で行動する場合に、チームをまとめていくのが難しかったということですね。

【小倉】 何人で行かれたのですか。

【大西】 前半は18人です。後半は15人です。

【田代】 テストが残っているメンバーがいたので、前半チームと後半チームに分かれました。



田代 義晴
ラグビー部監督

【小倉】 延べ総日数は何日間ぐらいされたのですか。

【田代】 2月8日から2月15日までです。

【角田】 前半と後半を通して参加した学生もいるということですね。

【田代】 3人は前半も後半も参加しました。





【角田】 今回、除雪作業のボランティア活動を通して、チームとしてもしくは皆さん個人として、どんなことが今後の皆さんの学生生活もしくは人生に生かされると思いますか。

【岡本】 練習や私生活を通してチームワークです。今回全員が動いたということでチームワークの根底にあるものを感じられた気がします。



岡本 祥明
経済学部 4 年次生

【角田】 今年の冬は豪雪でしたが、今後どういう形で社会貢献・ボランティア活動をラグビー部として考えていますか。

【田代】 まず本人が自分でボラン

ティアをしたことによって、本当に良いと自分たちで考えて判断し、無理にやらせるというのではなく、とにかく自主的にやってほしい。

今回、全員に本人たちが感じたことをレポートに書いてもらい、その内容を見て、人それぞれ考え方も違うので良いところを伸ばしてあげたいです。

これを機にクラブとしても、新潟に限らず吹田市内でも、ニュースになっている部分で児童の問題が非常に多いですが、ラグビー部は体力には自信がありますので、機会があれば、そういう部分でも空いている時間があれば、小学校の通学時間にパトロールをするなど、地域に貢献したいと思います。

また、一人暮らしのお年寄りが多いので、デイケアに行き、地方から出てきているメンバーもいますので、

寮ではないですがお年寄りのところにお世話になる。ただ、これは難しいかもしれませんが、そういうことができればと考えています。

【角田】 今回、田代監督からボランティア活動のきっかけをラグビー部員たちに作っていただきました。今度は学生諸君が、これをラグビー部の伝統というか、活動の一環として続けていけば、将来、社会に出て皆さんの人生に必ずプラスになると思います。

来年のことは分かりませんが、湯沢町とのつながりができたので今後もボランティアは続けられますか。

【大西】 そのあたりは聞いていませんが、僕個人としては、また何かあったときには駆けつけたいと思います。



大西 秀志
法学部 4 年次生

【角田】 今後のラグビー部の目標を聞かせてください。

【大西】 まずは一つひとつ勝ち進んでいって、最終的にはBリーグに昇格したいです。チームが一つになりきれていなかったと思っていたので、もっと団結力を深めて練習に取り組んでいきたいと思います。

【吉川】 今年が最後なので、Bリーグに上がって笑って終わりたいです。

【岡本】 チーム一丸となって勝っていききたいと思います。



【瀧澤】 ラグビー部はさほど上下関係がなくて、良い先輩・後輩に恵まれているので、みんな笑顔でマイナーチームから引退させてもらいたと思っています。個人としても、ラグビーをやっているわけですから、もっとうまくなりたいと思っていますし、皆でもっと向上心をしっかり持って、同じ目標に向かっていけるようになりたいと思っています。



瀧澤 慎吾
流通科学部 3 年次生

【大倉】 僕の目標は、Cリーグで優勝して、入れ替え戦で勝ってBリーグに上がり、上位をねらっていきたいと思います。

【角田】 本当に素晴らしい先輩たちがいますので、ぜひ新入生が入ってきたらいろんな面を教えてあげてください。

【小倉】 ラグビー部が行った新潟県の除雪作業のお話を聞かせていただ

いて、練習で気持ちが一つになるということよりも、長期間のボランティア活動を通して共同生活をし、共同作業をする中で、お互いが助け合わなければならない。勝負で勝ち負けだけを意識しているのではなく、お互いに協力し合って助け合って作業しなければならない。その中で培われたチームワークは、非常に強い心の絆を持った真のものだと思います。

【角田】 最後に学生部長として、いろいろ学生の課外活動の支援をさせていただいておりますが、今回のラグビー部としての除雪作業のボランティア活動を聞いたとき、本当に私はうれしく思い、ラグビー部を誇りに思いました。

先ほど小倉先生からもありましたが、スポーツは勝つことを目標にしていますが、勝つことの過程の中でいろんな努力の仕方があります。それが今回、ボランティア活動を通してチームがまとまったのではないかと思います。それを今度は、グラウンドで発揮してください。

そして、結果としてBリーグでまた活躍できれば、本当に皆さんも充実した学生生活になると思います。今後のラグビー部の活躍を期待しておりますので、ぜひ皆さん頑張ってください。



CAMPUS LIFE

大阪学院大学から熊本へ ママチャリ860kmの旅



国際学部
4年次生
清永 英一



外国語学部
4年次生
安保 俊宏

SPOT 何か大きなことを達成したいと日ごろから思っていた私達は、当時二年次生の夏に、熊本にある清永英一の実家への帰省をママチャリで行おうという根性試しの旅を発売し、実際に決行しました。ただ達成するだけでは味がないということでいくつかの無謀なルールを同時に決めました。まず最初に5日間で熊本まで到達すること。途中棄権は死ぬとき以外認めないこと。使用するのは中古ママチャリであることなど、なんとおぼけたものです。このルールのおかげでこの旅は本当に人間の限界を見た極限の旅になりました。すね、肩、ひじからは血を流し、手の平にはめが、ひざには激痛が走り、お尻や太もももこすれて激痛を感じました。初めは私達も、安全に気を配っていれば転倒や激突など絶対に起こらないと確信していましたが、人間は疲労がたまると集中力が欠損するようで、赤信号を理解できないような精神状態に陥ることもありました。真夏だったので、走行は日中を避け深夜に設定し、しかしその深夜というのはまさにトラック天国で、ひっきりなしに続くごう音が精神を蝕み、また逆に毎夜のごとく訪れる県境の灯りの無い山道が私達の心を弱らせました。毎夜体験する片やごう音、片や無音無視界の山越えの繰り返しは、さすがに精神の限界を実感させてくれました。とはいえ、この根性試しの旅はつらい思い出ばかりではありません。例えば、背中に「大阪から熊本」と書いていたことから、車からの応援の声を聞いたことは数えきれず、訪れたコンビニエンスストアではお茶やおにぎり、お餅やサンドイッチをいただき、電気屋でもすいかをいただいたうえに水筒に氷まで足してもらいました。広島先輩のお母様には私達のためにスタミナたっぷりのお弁当を作って持たせてくれました。人の心のなんと温かいこと、人の優しさのなんと温かいこと、一方でそれを身にしてみても感じた旅でした。実は私達は1時間ほどのドキュメンタリーDVDを撮っていました。そして旅も終わり、落ち着いたところに、とおいたレシートからお世話になった方々の住所を調べ、熊本で買ったお酒とそのDVDを送ったところ、後に喜びに満ち溢れた電話がかかってきました。初めて会った人が真剣に私達の旅の成功を喜んでくれたことに涙が止まりませんでした。極限状態のなかで耐え抜けることができたのは、彼らの助けがあったことと、二人に強い信頼関係があったからだと思はれています。

さて、私は皆さんに旅を推奨します。旅は人を成長させ、何か自分の人生にはくが付いたように堂々とさせます。何せ話のネタが増えるだけで予想以上に役立つものです。そしておもしろいことに、旅というのはたとえ同じ内容のものであっても、行った人によって得るものが全く変わってくるのです。私達は確かに同じ出発点に立ち、同じように時間と場所を経験し、共に同じ終着点に到達しました。しかし、そもそもが別人である私達は、この五日間で得たものは全く違うに違いありません。このあたりが旅をすることのおもしろさだと思います。ただ、これらの経験が自分のものになるかならないかは、達成後に自分で振り返るかどうかで決まります。実は私達自身も達成直後はあまり多くは感じることはできませんでした。もちろん達成感はありませんでしたが、それ以外の確かな手ごたえはずっと後にやってきたのです。しかも人に話して振り返るうちに気付いたり、まとまったりしていったのです。どうやら、旅というのは終わった後に深まるものなのです。そういった意味で私達の今回の旅は、語れば語るほど発見がわいてくる実に魅力的な経験だったといえます。私達はこれからも自分を深めるために旅を続け、語り続けようと思います。



- | | | |
|-----|-------------------------|------------|
| 8.1 | E.S.S.の合宿から帰って寝ずに出発を迎える | |
| 8.2 | 0時 大阪学院大学出発 | |
| | 8時 明石の安保管到着 日中は休憩 | |
| | 16時 明石発 | |
| 8.3 | 8時 岡山市到着 | (210キロ) |
| | カプセルホテルで睡眠 | |
| | 12時 岡山発 | |
| 8.4 | 8時 東広島到着 | (170キロ) |
| | ファミレスで3時間睡眠 | |
| | 11時 東広島発 | |
| | 16時 広島市の先輩を訪ねる | |
| | 23時 岩国到着 | (70キロ) |
| | ホテル宿泊 | |
| 8.5 | 10時 岩国発 | |
| 8.6 | 2時 下関到着 | (190キロ) |
| | カプセルホテルで睡眠 | |
| | 10時 下関発 | |
| 8.7 | 未明 熊本の英一宅到着 | (220キロ) |
| | | (合計約860キロ) |

CLUB ACTIVITIES

CLUB ACTIVITIES

水泳部

私たち水泳部は、競泳を通して試合に参加し、成績を残すことにより体育会水泳部へ昇格することを目指し、平成14年6月、サークルとして発足しました。サークルといっても、クラブ活動同様に週4回のスイム練習と筋力トレーニングに励んでいます。練習メニューは、競泳主任が初心者から経験者までいる選手全員のメニューを考えます。練習は月・水の夜と、土・日の朝に大学の近くにある千里丘スポーツプラザのプールを借りて、選手全員が夏のメインレースである「関西学生選手権」を目指して練習します。



関西の大学水泳部は実力により1部から3部に分けられています。私たちは現在その3部に所属しています。今はまだ人数が少なくチーム得点が低いため2部への昇格が難しい状況です。しかし、個人の力では十分に戦える選手もいます。関西学生選手権では2年連続で優勝、そのほかの種目での優勝、上位入賞など個人での成績は、1部・2部の選手にも負けない実力を持っています。

現在、部員は選手6名、マネージャー1名の計7名で活動しています。少人数での活動で大変ですが、全員しっかりと目標を持ち練習に励んでいます。また、サークル発足から5年目の今年、発足したときの目標である体育会への昇格が決まり、4月から体育会水泳部になりました。まだまだ歴史は浅いですが、ゼロから始まった水泳部が先輩方の努力を引き継ぎ「関西学生選手権」でも戦えるチームになってきました。このチームをさらに強く大きくしていくことが、次の私たちの大きな目標であり、体育会への昇格を果たしたからには、「大阪学院大学・大阪学院短期大学の水泳部に入りたい」と新入生からいわれるようなクラブを作っていきたいと思います。

皆さんは水泳または競泳に興味はありませんか？初心者、経験者ともに大歓迎ですので、是非私たちと2部昇格、全国大会を目指して頑張りましょう。マネージャーも大募集ですので、皆さんの入部を部員一同心からお待ちしております。



流通科学部流通科学科
3年次生
木下 元

年間スケジュール

- | | |
|-----------------|----------------|
| 5月 大阪学生選手権 | 2月 吹田市民大会（冬） |
| 6月 京都学生選手権 | 3月 関西学生春期室内選手権 |
| 7月 兵庫学生・関西学生選手権 | |
| 8月 吹田市民大会（夏） | |



学生相談センターだより

自分をよりよく知るために

カウンセラー 中村 慶子

私たちは日ごろ、様々な人と出会い、互いにかかわり合いながら暮らしています。自分の考えや思いを他者に認めてもらったり、受け入れてもらえると、「一人じゃないんだ」とか「自分はこれでいいんだ」という自信や勇気が湧いてきて、毎日の生活で直面する出来事や変化にも柔軟に対応できるエネルギーが蓄えられます。ところが、思うように理解されなかったり、誤解されてしまったり、責められるようなことが続くと、心の中の不安感が膨らみ、無気力になったり、孤独感や絶望感にも陥りかねませんし、時には腹痛や頭痛など体調を崩してしまうこともあります。

私たちにとって、他者とよく分かり合える良好な人間関係を築いていくことは、生きていくうえで、大きな原動力となっていることが容易に想像できると思います。学生相談センターでも「人とどう向き合ったらいいか悩んでいる。そこが解決しないと前に進めないような気がする」という訴えに出会うことが少なくありません。充実した学生生活を送るうえで、安定した他者とのかかわり方を身につけることは大きな課題だと考えられます。

心の四つの窓

安定した人間関係を築くうえで、他者の気持ちがよく理解できたり、想像することができる力は大切な役割を果たしてくれます。特別なことを言うてくれるわけでもないけれど、その人と一緒にいると落ち着くというような経験はありませんか。きっとその人には、そういう力が備わっているのかもしれませんが。私たちはこの力をどのように使うべきなのでしょう。それはいちばん身近な人間、自分自身をよりよく知ることから始まります。なぜなら、どんなことで、どんなときに喜び、怒り、悲しんでいるか自分の心の内を見つめ直すことは、今まで思ってもいなかった自分を発見したり、思い込みから自由になったり、こだわりが減ったり、「まあいいや」と思えることが増えたり、より生きやすくなってきますし、そのことを通じて他者の気持ちも一層分かるようになって考えるからです。

自分の心の内を理解するうえで、その手掛かりとして役立つのが「心の四つの窓」という考え方です。この理論を考え出した二人の名前をとって「ジョハリの窓」とも呼ばれています。下図で示すように心の中を四つの領域に区分すると、①は自分も知っているし、他の誰も知っているけれど、開放され自由に行動できる領域です。②は他人には知られたくない自分の弱点など秘密の領域です。自分の気持ちや思いを話していくことで縮小していくと考えられています。③は自分も他の人も知らない未知の領域です。この理論は②と③の領域が縮小し①の領域が拡大するほど健全でより生きやすくなるという考えを示しています。もちろんその過程で④の領域も縮小していくことが好ましいことは言うまでもありません。

この考え方を参考にして、自分の「心の四つの窓」の大きさは今どうなっているか考えてみませんか？そして、それが自分自身をもっとよく知るきっかけになればと思います。

	自分は知っている	自分は知らない
他人は知っている	①	②
他人は知らない	③	④

相談したいときは

- ◆直接、学生相談センター（3号館6階）まできてください。
- ◆保護者や友人と一緒にでも、また保護者のみでも相談できます。
- ◆電話での相談や予約も、受け付けています。
- ◆相談内容の秘密は厳守されます。

<相談時間>

学業・進路・就職・生活全般
月～土曜日 9:00～17:00
心理相談

月～土曜日 10:00～16:00

※日・祝祭日および事務休業日はお休みです。1回の相談時間は原則として1時間以内ですが、継続して利用できます。どんなことでも結構ですので、気軽に学生相談センターを訪ねてください。

学生相談センター受付電話
(06) 6382-0266（直通）

CAMPUS NEWS DIGEST

人事

新任

〔平成18年4月1日付〕

 経済学部 本間 清史 講師 担当科目 経済発展論、ゼミナールⅠA・B、 ゼミナールⅡ、ワークショップA・B	 法学部 石川 優佳 講師 担当科目 生活と法、英書講読Ⅱ、 一般ゼミナール、不法行為法	 外国語学部 松本 和朗 教授 担当科目 総合科目(Ⅰ～Ⅴ)、ドイツ事情、 ゼミナールⅡ、国際事情、 人間社会とヒューマンライツ
 情報学部 浅田 勝彦 教授 担当科目 信号処理、ゼミナールⅠA、 デジタル通信、情報回路論Ⅱ	 国際センター K.A. マウ 助教授 担当科目 オーラル・コミュニケーション Ⅱ・Ⅲ・Ⅵ	 ホスピタリティンダストリー研究所 杉原 淳子 助教授 担当科目 ファッションマーケティング論
 ホスピタリティンダストリー研究所 藤田 恵美子 助教授 担当科目 ホスピタリティラーニング	 ラーニングセンター 下村 尚子 講師	 ラーニングセンター シルバ 寿子 講師
 ラーニングセンター 中村 一郎 講師	 ラーニングセンター 正岡 孝昭 講師	

退職

〔平成18年2月28日付〕

国際学部 松本 剛 助教授

〔平成18年3月25日付〕

国際センター D.T. オオシロ 客員講師
N.ボルキヤール 客員講師

〔平成18年3月31日付〕

法務研究科 高木多喜男 教授
流通科学部 片山 貞雄 教授
風呂 勉 教授
経営科学部 池田 勝彦 教授
法学部 木村 昌司 教授
中西 正明 教授
国際学部 内田 次信 教授
本間 弥生 教授
情報学部 清水御代明 教授
企業情報学部 狩俣 正雄 教授

流通科学部講演会
「赤ちゃん幸せ、人間幸せ」学の創設



〔11月2日(水) 2号館地下1階01教室〕
ベビー用品の専門メーカー、アフリカの創業者（現アフリカ葛西株式会社代表取締役会長）葛西健蔵氏に起業のいきさつや、現在に至るまでの経緯についてお話いただきました。講演には、「人に尽くす気持ちを持つ人は、世界中どこでも活躍できる」「仕事をするうえで、目的をしっかり持つことが大切である」「会社の目的は、人間の幸せのためにあるべきだ」などの力強いメッセージがたくさん含まれ、参加者は勇気づけられていたようでした。

星野仙一氏 講演「成功へ続く道（人生にとって大切なもの）」（教養講座）



〔12月6日(火) 15号館2階03教室〕
阪神タイガース・シニアディレクターである星野仙一氏をお迎えして教養講座を開催しました。講演では「成功へ続く道（人生にとって大切なもの）」をテーマとして、夢を実現させるための道しるべを示していただきました。約750名の参加者は「今後の学生生活をいかに有意義に過ごすかが成功への道である。」と確信を持った様子でした。

学内講演会「気候変動との戦いにおける開発途上国の役割」



〔1月14日(火) 2号館地下1階04教室〕
ケンブリッジ大学クイーンズカレッジよりLavanya Rajamani 教授をお招きし、学内講演会を開催いたしました。環境問題において世界的な気候の変化が最も深刻な課題であり、その焦点となる京都議定書について、世界の80%の国々が順守しないという現状の中、開発途上国がどのように対応していくか、先進国がどのように援助しなければならないかについてご講演いただきました。「参加国は平等の発言権をもつのか」「議定書に同意しない国に対して何らかの制裁はあるのか」など、参加した外国教員や留学生から、それぞれの国の立場や現状を踏まえながら、環境問題の行方について積極的な質問が出され、Rajamani教授に、詳しく解説をいただきました。誰もが直面する環境問題だけに、大変関心の高い講演となりました。

退職記念講義



清水 御代明 情報学部 教授
〔1月19日(木)
15号館地下1階01会議室〕

本間 弥生 国際学部 教授
〔1月20日(金)
15号館地下1階01会議室〕

今年度をもって退職される清水教授・本間教授の退職記念講義を行いました。
清水 教授「へたの考え」
本間 教授「日英語のリズムと音響音声学」
上記のテーマで講義が行われ、スクリーンに映し出される様々な研究結果に多くの学生が興味を示していました。卒業生も講義を聴きに訪れ、花束の贈呈や記念撮影が行われるなど、先生がたの退職が惜しまれる様子が伺われました。

法務研究科講演会
「四川省における自然環境の保全～九寨溝・黄龍(世界自然遺産)、パンダ保護を例に～」



〔12月22日(木) 2号館地下1階02教室〕
中国・四川省で環境保護行政を担う 謝天 氏（四川省環境保護局副局長）をお招きし、講演会を開催しました。当日は大学院生だけでなく学部生、教職員、保護者、一般市民と幅広く、そして多数の方々にご参加いただきました。
講演では、観光名所として知られる「九寨溝・黄龍」（世界自然遺産）やパンダの保護といった同氏の取り組みが説明されました。また、こうした保護行政の成果は、中国国内にとどまらず、日本をはじめ地球環境全体に影響するものであることが強調され、その後、活発な質疑応答が展開されました。

法務研究科特別講義「EU環境政策における予防原則—科学・政治学・環境論および法学の相互作用—」



〔1月14日(火) 2号館地下1階02教室〕
ケンブリッジ大学クイーンズカレッジよりLavanya Rajamani 教授をお招きし、法務研究科特別講義を開催いたしました。講義は、公衆の価値観や危険認識に対する人々の認識の違いが予防原則の考え方を推進し、EUの環境法や環境政策に影響を与えるのだということをEUとアメリカとの間で起こった遺伝子組み換え食品についての論争に言及しながら進められました。会場には法科大学院の学生をはじめ、学部生、一般市民、そして4月から法科大学院への入学予定者など多数のご参加をいただき、講義終了後の質疑応答は非常に活発なものとなりました。

新春夢トーク



〔1月23日(月) 2号館地下1階02教室〕
充実した学生生活の中からチャンスを生かし、夢の実現へと向かっている先輩たちが自らの体験を語る「新春夢トーク」が開催されました。約200名の参加者は、それぞれが勇気と希望を持って、夢に向かう姿に感銘を受け、見過ごしていた自分のチャンスに気づかされたようでした。
発表者・テーマは次のとおりです。
(発表者)
・石櫃 洋祐（'06 経済学部卒業）サッカー部所属・ヴィッセル神戸入団
・橋垣戸 光一（'06 流通科学部卒業）サッカー部所属・愛媛FC入団
テーマ：「憧れのJリーグ」
・谷 咲貴子（'06 国際文化学科卒業）ディオ"Ogu"を結成して活躍中
・松永 夕薫里（'06 国際文化学科卒業）ディオ"Ogu"を結成して活躍中
テーマ：「プロデビューを夢見て」
・山口 剛（'06 経済学部卒業）全日空ホテル内定
テーマ：「ホスピタリティ産業を目指して」
・秦 和弘（'06 経済学部卒業）ゴルフ部所属
テーマ：「プロゴルファーを目指して」

プレゼンテーションコンテスト



〔1月27日(金) 2号館地下1階02教室〕
今回で5回目となる短期大学プレゼンテーションコンテストを開催しました。ゼミナールなど授業での研究成果などを発表する場として11組28名の参加者が、パソコンを駆使しながら社会問題などを題材に、見事な表現能力を発揮しました。
接戦の結果、優勝は経営実務科2年次生 谷口麻美さん・山村恵美さん（タイトル「女性を対象とする社会人と学生の金銭感覚の違い」）、2位は'06 経営実務科卒業 松廣沙希さん、3位は経営実務科2年次生 工藤紗希さんでした。
ご来場いただいた多くのかたがたのご支持に応え、出場者のさらなる飛躍を期待いたします。

ラグビー部 新潟県除雪作業によるボランティア活動参加



〔2月8日(水)～14日(水) 新潟県・南魚沼郡湯沢町〕
 本学ラグビー部は、新潟県 南魚沼郡湯沢町での除雪作業によるボランティア活動に参加しました。ボランティア活動を通して、自分が何ができるかを考え行動に移し、一つの目標に向かって協力することの大切さや、様々な人との出会いがあり、相手の立場を思いやり身近な助け合いから人と人は繋がっていくことを学べた貴重な経験となりました。

学内会社説明会



〔2月17日(金)～3月3日(金) 2号館ラウンジ〕
 約350社の参加による「第1回学内会社説明会」を開催しました。各企業のプレゼンテーションの後、各ブースに分かれ、個別の説明会が行われました。例年、この説明会が縁で採用内定者が多数出ることから、学生の関心も高く、就職を希望する大学3年次生・短大1年次生が12日間で延べ、2,091人が参加しました。意欲あふれる学生たちの今後の就職活動とその結果に期待しています。

学内公務員説明会



〔3月1日(水)～3日(金) 13号館2階〕
 公務員に関心を持っている学生を対象に、警察、消防、日本郵政公社などの計7団体から人事担当者を招き、試験制度や業務内容等についての説明が行われました。地域に密着したものから、長期的な視野に立った大きな仕事まで幅広い分野にわたる仕事があり、住民生活の安全や秩序の維持などに努めるという公務員の仕事に、近年ますます人気が高まっています。将来、是非公務員になりたいという人は、公務員試験に向けて早めの対策を立てましょう。

入学予定者のためのプレオリエンテーション



〔3月14日(火)・15日(水)〕
 「入学したら何から始めればいいですか?」「どんなクラブやサークルがありますか?」
 大学生活の色々な疑問や不安を解消するため、入学予定者を対象にプレオリエンテーションを開催しました。最初は緊張した雰囲気でしたが、ゲームなどをするにつれ、徐々に周りの入学予定者とも打ち解けていました。先生からは入学後の心構えや学修の進め方などのお話があり、在学生の先輩からは学生生活を送るうえでのアドバイス、自分の所属クラブや海外研修などの体験談を聞き、4月から始まる大学生活への期待を膨らませていたようでした。

サッカー部OB 石櫃君・橋垣戸君 Jリーグ入団!



石櫃 洋祐君



橋垣戸 光一君

今春卒業したサッカー部OBの石櫃洋祐君('06 経済学部卒業)がJリーグ「ヴィッセル神戸」、橋垣戸光一君('06 流通科学部卒業)が「愛媛FC」に入団しました。
 2人とも関西学生リーグ戦で大会優秀選手賞を受賞し、石櫃君は主にMFとして活躍し、精度の高いクロスボールやコーナーキック、フリーキックの技術に定評があります。また、橋垣戸君はDFとして、一年次生からレギュラーとして活躍し、攻守のバランスに優れ、DFラインをコントロールする統率力も兼ね備え、ボランチのポジションもこなすことができる選手です。
 一日も早くトップチームの中心選手として活躍してくれることを期待し、大きな声援をお願いします。

INFORMATION May~

庶務課

教育懇談会

教育懇談会は、保護者の皆様に大学全般や就職活動等の説明を通して本学への教育活動についてより一層ご理解をいただくことを目的に実施しております。本年度は下記の日程で開催いたします。なお、詳細は別途送付いたします案内状をご覧ください。多数のご参加をお待ちしております。

平成18年度 教育懇談会日程・会場一覧

8月	22日(火)	富山会場
	23日(水)	石川会場
	24日(木)	香川・愛媛会場
	25日(金)	徳島会場
	29日(火)	福岡会場
	30日(水)	広島会場

※日程および会場は、変更となる場合があります。

9月	1日(金)・2日(土)・3日(日)	本学会場
	7日(木)	東京・高知会場
	8日(金)	静岡会場
	12日(火)	愛知会場
	13日(水)	鳥取会場
	14日(木)	岡山会場
	15日(金)	和歌山会場

DEC (Digital Education Center)

3号館 MELOP がリニューアルオープン!!

平成18年4月3日(月)に3号館 MELOP が一部リニューアルオープンしました。新しくなった3号館 MELOP をぜひ活用してください。

MELOPでは「Technology As A Toolー活きるITスキルを身に付けようー」をコンセプトに、コンピュータやマルチメディアに関する様々な企画を実施しています。

「テクノロジーを使えるか」ではなく「あなたがテクノロジーを使って何をするのか」という考え方にに基づき、常駐の専属インストラクターが会員一人ひとりの目標やニーズを達成するまでしっかりサポートしています。

会員以外の学生も MELOP を体験できる「MELOP オープンセミナー」を開催中です。ぜひ、この機会に MELOP を体感してください!

期間: 5月

場所: 12号館地下1階 MELOP

体験内容: ①講習会受講
 ②自由利用
 ③個別カウンセリング

※MELOP 開室スケジュールは MELOP ホームページ等で確認ください。

新しくなった「OGU-Caddie」

「OGU-Caddie」は、平成18年度から便利な機能を追加して新しくなりました。

新教育システム「OGU-Caddie (キャディー)」は学内ネットワーク「OGUNET」を利用することにより、授業時間内外での学習や先生とのコミュニケーションを可能にする便利な学習ツールです。

【主な新しい機能】

- ①科目登録作業なしにすぐ利用できます。
- ②画面が見やすくなりました。レポート提出や講義資料閲覧が簡単にできます。
- ③様々な形式の小テストやアンケートが実施できるようになりました。解答してすぐに正解を見て学習することもできます。※出題形式は先生によります。
- ④ディスカッション機能が使いやすくなりました。先生や友達との意見交換が簡単にできます。
- ⑤英語版に対応しました。留学生の皆さんにも使いやすくなりました。 etc.

DEC (Digital Education Center)

デジタルストーリーテリングフェスティバル



優秀作品にはノートパソコン、DVDデッキ
デジタルカメラ等 進呈！

授賞式 2006年
12月16日(土)

Digital Storytelling Festival とは？

Digital パソコンで！
Storytelling 自分の物語を英語で作って発表する！
Festival コンテスト！

- 募集対象：①高校生以下（個人・5名までのグループ）
②大学生・短期大学生（個人・5名までのグループ）
③一般（個人のみ）
- 募集期間：2006年6月15日(木)～10月31日(火)
- エントリー数：各人一作品まで
- 作品テーマ：①高校生以下「Love」「Friendship」「Comedy」の中から1つ選択。
②大学生・短期大学生 フリー
③一般 フリー
- 応募方法：①Power Pointで作成する。
②OGUオリジナルストーリーボード作成プログラムで作成する。
詳しい応募方法については本学公式ホームページのトップページにある「イベント」をご覧ください。
URL：http://www.osaka-gu.ac.jp/
- 作品制作ルール：①作品はオリジナルのものに限ります。
②使用言語は英語です。
③作品は、5～12枚のスライドを目安とし次のいずれかを利用して作成してください。
・Power Point ・OGUオリジナルストーリーボード作成プログラム
④作品にはオリジナルの写真・挿絵・音声・動画等の装飾を施しても構いませんが、
他者の権利を侵害する事項は禁止します。
※提出された作品の著作権は大阪学院大学に帰属します。
- 審査・各賞：厳正なる審査を経て、各カテゴリーの優秀な作品に次の各賞を表彰します。
①Master Storyteller
②Phoenix 賞
③Clock Tower 賞
なお、各賞には賞状・副賞が進呈されます。
- お問合せ・作品送付先：大阪学院大学 DEC (Digital Education Center)
〒564-8511 吹田市岸部南二丁目36番1号
TEL：06-6381-8434 (代表) FAX：06-6382-4363
E-mail：dec@uta.osaka-gu.ac.jp

入試事務室

オープンキャンパス開催

開催日	開催時間
7月30日(日)	10:00～15:00 ※事前予約不要
8月6日(日)	
8月20日(日)	
8月27日(日)	
9月10日(日)	

開催内容

入試説明会、各種個別相談、在学生によるなんでも相談、キャンパス見学ツアー、学食ランチ体験等、学生生活を体験できるプログラムを実施します。

入試相談会開催

開催日	開催時間
10月7日(土)	14:00～17:00 ※事前予約不要
10月14日(土)	
10月21日(土)	
10月28日(土)	

開催内容

入試個別相談、各種個別相談等により、入試・学生生活に関する不安や疑問を解決する相談会です。

国際センター

IP (TOEIC®テスト学内受験)

TOEIC®テストとは、英語によるコミュニケーション能力を評価するための世界水準のテストです。IP (TOEIC®テスト学内受験) は、一般公開テスト(6,615円)に比べ低料金(2,990円)で受験でき、スコア通知も早いのが特長です。本学交換留学や就職活動用の履歴書にも記載できます。平成18年度の実施は以下のとおりです。

	試験日	申込み受付期間	時間
第1回	5月14日(日)	3月22日(水)～4月25日(火)	13:00～15:30
第2回	7月9日(日)	5月15日(月)～6月24日(土)	
第3回	10月15日(日)	7月10日(月)～9月28日(木)	
第4回	12月17日(日)	10月16日(月)～12月2日(土)	
第5回	2月4日(日)	12月18日(月)～1月19日(金)	

※申込受付はエクステンションセンターで行います。

ITP (TOEFL®テスト模擬試験)

TOEFL®テストは国際標準の英語能力試験です。特に英語圏の大学・大学院への留学を目指す人には英語力の証明として必須の試験です。ITPは正規のテスト(\$130)に比べ、低料金(2,960円)で受験できます。本学交換留学の出願にも使えます。

	試験日	申込み受付期間	時間
第1回	5月20日(土)	3月22日(水)～4月27日(木)	16:10～18:40
第2回	7月15日(土)	5月22日(月)～6月22日(木)	
第3回	10月21日(土)	7月18日(火)～9月28日(木)	
第4回	2月15日(木)	10月23日(月)～1月23日(火)	10:00～12:30

※申込受付はエクステンションセンターで行います。

ホストファミリー募集

国際センターでは、提携大学からの外国人留学生をホストファミリーとして受け入れていただけるご家庭を募集しています。詳細については、国際センターにお問い合わせくださいますよう、お願い申し上げます。(Eメール：inoffice@uta.osaka-gu.ac.jp)